

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 49	14	百日咳	→ 2	1
RSウイルス感染症	↘ 36	80	ヘルパンギーナ	↘ 1	4
咽頭結膜熱	↘ 9	13	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↘ 59	64
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↘ 60	82	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 728	672	流行性角結膜炎 (はやり目)	↗ 22	15
水痘	↗ 86	84	細菌性髄膜炎	↘ 0	3
手足口病	↘ 0	1	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	→ 4	5	マイコプラズマ肺炎	→ 6	5
突発性発しん	↘ 34	47	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い  
感染症

- 感染性胃腸炎
- 水痘
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 728 件(前週報告数 672 件)と増加。地区別では、八代、山鹿、有明に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の131件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 水痘は、報告数86件(前週報告数 84件)とやや増加。地区別では、山鹿、菊池、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の26件を最多に7歳以下からの報告である。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 60 件(前週報告数 82 件)と減少。地区別では、人吉、熊本、菊池、天草に多く報告がみられる。年齢別では、3歳の11件を最多に主に10～14歳以下からの報告である。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	15	13	3	32	160	38	0	2	12	1	0	13		20				3
山鹿保健所	0	0	0	0	52	8	0	0	3	0	0	0	*	*				
菊池保健所	1	3	4	6	98	15	0	0	5	0	0	5						
阿蘇保健所	2	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	17	7	0	2	105	1	0	0	1	0	0	4						
水俣保健所	0	3	0	0	32	3	0	0	2	0	0	17	*	*				
人吉保健所	6	2	0	7	39	0	0	0	1	0	0	4	*	*				2
有明保健所	0	0	2	3	126	10	0	1	1	1	0	7		1				
宇城保健所	5	6	0	4	49	7	0	0	7	0	0	4						
天草保健所	2	2	0	6	58	4	0	0	2	0	1	5		1				1
計	49	36	9	60	728	86	0	4	34	2	1	59	0	22	0	0	6	0

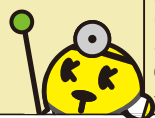
## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	49			4	2	4	1	5	2	3	3	2	5	2	4	7	2	1	1		1
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	36	10	6	16	3	1															
咽頭結膜熱	9			5	1	1		1		1											
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	60		1	3	2	11	5	7	8	6	9	3	4		1						
感染性胃腸炎	728	4	53	131	86	77	48	67	45	38	30	24	48	14	63						
水痘	86	2	6	26	9	12	15	7	6	3											
手足口病	0																				
伝染性紅斑	4			2				2													
突発性発しん	34	1	16	17																	
百日咳	2		1											1							
ヘルパンギーナ	1					1															
流行性耳下腺炎	59			2	6	9	8	7	10	11	1	2	2		1						
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	22		1	1	1								2		5	7	1	2	2		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	6			4	1																
クラミジア肺炎	0																				

### 大きな流行が発生 又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎：山鹿・菊池・八代・有明  
流行性耳下腺炎：水俣

### 感染性胃腸炎 インフルエンザ



感染性胃腸炎は3週間で約2倍に増加しています。地区別では、山鹿、菊池、八代、有明が警報レベルに達しており、特に注意が必要です。症状は、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などがあります。子供の場合、元気がなかったり、不機嫌な状態が続く時はすぐに受診してください。家庭では脱水を起こさないよう、水分補給に努めましょう。特にノロウイルスの感染力はきわめて強く、医療機関や社会福祉施設、学校など集団生活の場で流行を起こすことがあります。家庭においても部屋の換気やうがい・手洗いなどの感染予防対策に努めましょう。

インフルエンザについても今後、全体的に増加することが予想されます。

- ① 流行時には人混みを避ける
- ② 手洗い・うがいを習慣づける
- ③ 栄養、休養、睡眠を十分に取る
- ④ 部屋の換気と保湿に心がけるなどの対策を行いましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課